

「幼児期までのこどもの育ち部会」ヒアリングについて
～子どもたちが育つよりよい明日を目指して～

幼児期までのこどもの育ち部会において、「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」について具体的な検討における留意点として、5つの論点が挙げられています。このうち前半に挙げられている以下の2点について、就学前の子どもに関わる立場から意見を申し上げます。

【こどもの誕生前から幼児期までを切れ目なく対象】
【妊娠以前や、小学校就学以降の育ちとの接続に留意】

5歳児からの2年間を「架け橋期」としてさまざまな議論が進められています。小学校との接続をいかにスムーズにするのかは、私たち保育施設を運営するものとしても大きな課題を感じています。

ご存知のように平成29年3月より保育園、認定こども園、幼稚園の各施設では、新しい指針・要領のもと保育が展開されています。これは知識集約、知識偏重型の教育から「自己と他者との相互関係能力」といった、個々に深く考え自律的に行動する能力を育む保育への大きな転換でした。それまでの保育は保育者主導で保育を組み立てていましたが、子どもの主体性を大切にしたい保育を目指し、多くの保育現場で実践が行われています。（*「新しい時代は子どもから」のチラシをご参照ください）

具体的な実践例としては、運動会や発表会での演目を保育者が決めるのではなく、子どもたちとの話し合いをもとに検討し、遠足の行先を「〇〇へ行きます」と目的地ありきで決定する保育から、子ども同士の話合いを土台に行先を決めるなど、子どもと家庭そして保育者で保育の営みを編み上げるように毎日を過ごしています。

従前の保育と比べ、子どもの主体性を尊重する保育は手間も時間もかかりますが、改定された指針・要領に込められた「21世紀を生きる子どもたちに必要とされている知性の基礎を育ててほしい」というメッセージを保育現場が受け取り、保育の転換を進めています。高校大学をはじめとする高等教育においてもアクティブラーニングが進められているのは既知のことと存じます。

一方で小学校はそのほとんどが公立であるため、指針・要領変更への対応に時間を必要とすることに対して、一定の理解はできます。しかしながら、すでに変わり始めた就学前施設と変わるのに時間を必要としている小学校教育では、そこに遭遇する子どもとその保護者、保育施設と小学校の間で齟齬と戸惑いが生じるのは自明のことと思います。

保護者は親心として、子どもに苦勞や悲しい思いをさせたくありません。そのため『小学校に上がって困らないように』との願いを強く持っています。令和5年5月16日に開催された「幼児期までのこどもの育ち部会」資料3-2には「誰と何を共有したいのか」と題されたスライドにおいて「安心と挑戦の循環(愛着)による育ちのプロセスを共有」と明言されております。私たちが願うのもまさにこの点です。子ども、保育施設、家庭、小学校、そしてなによりも社会全般、この5者間において、育ちのプロセスの共有がなによりも求められていると考えます。

ひとりひとりの子どもが尊重され、よりよい明日を生きるために、施設の壁を越えて共に話し合えることを願ってやみません。

以上

新しい時代は子どもから

～子どもの今が未来を創る～

子どもの「遊び」を
守りましょう

子どもの思いを
受け止めましょう

子どもの
「自分でやりたい」を
大切にしましょう

子ども自身に
乗り越える力を
育てましょう

みんなで食べると
美味しいんです

子どもは自然が
大好きです

子ども同士の
関わりが大切です

(公社)全国私立保育連盟は、未来を生きていく子どもたちのために
社会へ向けて、7つのメッセージを送ります。

新しい時代は子どもから



公益社団法人

全国私立保育連盟

私たちが伝えたい7つのメッセージ

子どもの思いを受け止めましょう

小さな赤ちゃんでも、自らの意思を、泣くことや表情で伝えています。私たちが子どもの思いを受け止めることで信頼関係が築かれ、やがて愛着を形成し、くつろぎ安定した環境の中で、成長が促されます。言葉はなくても、話しかけることや思いを理解することが大切です。

子どもの「遊び」を守りましょう

私たち大人は、「遊び」と「学び」を対立的に考えてしまいます。けれども、子どもは、自らが考える「主体的な遊び」の中で多くのことを学んでいます。子どもにとっては遊びこそが学びであり、その機会を保障していくことが大人の使命です。

子ども自身に乗り越える力を育てましょう

子どもが成長するには、子ども自身に力を付けることが重要です。個々に違う子どもの発達過程を踏まえて、少し上の課題にチャレンジすることも成長に繋がります。特に安全面においても、危険を排除するのではなく、その子に応じた課題を乗り越えられるよう援助することが大切です。

子どもの「自分でやりたい」を大切にしましょう

子どもは自らやってみたいという気持ちを持っています。子どもが自らの思いで「やってみたい」と思うことは、自発的な行動に繋がり、取り組むことの集中力や自ら考える機会となります。このことは、やり遂げた際に大きな達成感を生み、次なる活動の意欲に繋がります。

子ども同士の関わりが大切です

子ども同士の関係は、時に見習い、時に助け合い、時には配慮するなど、自らの意思により考えて工夫する機会となります。特にトラブルなどにおいても、気持ちをコントロールすることや、お互いを認め合う等を学び、多様性を認める力やコミュニケーション力を高めることに繋がります。

みんなで食べると美味しいんです

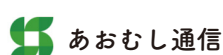
食事は、周りの人と共感して食べることにより、食を楽しむ機会になります。特に楽しく食べた味の体験はポジティブな記憶となり、生きるために欠かせない行動となります。つまり、強制された食事ではなく、楽しみながら食べることで、食への意欲や健全なからだをつくれます。

子どもは自然が大好きです

子どもが自然に触れることは多くの意味を持ちます。特に虫や花など小さなものから大きな植物や地形などに不思議を感じ、深く興味を持ちます。更に自然の中で活動することは、体力を培い運動能力や危険を予知する力になります。また、四季を通じた気候の変化や、様々な生物と触れ合うことで五感を研ぎ澄まします。

公益社団法人全国私立保育連盟事務局 〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館

TEL 03-3865-3880 FAX 03-3865-3879 E-mail: ans@zenshihoren.or.jp



<https://www.zenshihoren.or.jp/>



新しい時代は子どもから

<https://www.zenshihoren.or.jp/specialized/feature/report.html>



全私保連

公式YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCy3LvUSg5wmwIXdA0RkkJXA>

